

食糧支援 ニュースレター



World Food Programme

TOPICS

- WFP飢餓撲滅大使 チャン・ドンゴンさんがラオスを訪問
- 女性に焦点を当てた支援
- 買うことも支援
～農作物購入で農民の自立を助ける～
- 渡辺俊介投手のWFP支援！
学校給食を野球でサポート！
- 私たちのWFP支援 株式会社ジェシービー
- 第7回WFP生徒作文コンクール 作品募集中
- 「ウォーク・ザ・ワールド」開催報告



© WFP / Toru Yokota

WFP 飢餓撲滅大使 チャン・ドンゴンさんがラオスを訪問



1



2



3

台風16号に襲われたラオス南部の村へ

韓国人映画俳優として活躍しているWFP飢餓撲滅大使のチャン・ドンゴンさんが、この春、ラオスを訪問しました。チャン・ドンゴンさんは、昨年9月末に台風16号（国際名「ケッツァーナ」）に襲われたラオス南部の村を訪問し、現地の人と交流をするとともにWFPの支援活動を視察しました。

ラオス是最貧国の一つ。国民の3

分の2以上は貧しい農村に住んでおり、慢性的な飢餓が極めて深刻です。さらに、干ばつなどの自然災害や、インドシナ戦争時に残された不発弾など、さまざまな問題が飢餓状況を悪化させています。特に農村部においては、半数にも及ぶ人々が栄養失調に苦しんでいます。WFPはこれまで、自然災害により農作物を損失した農村などでの緊急食糧支援

や、学校給食プログラムなどの支援を行ってきました。

昨年の台風16号によるラオスでの被害は大きく、約25万人が被災しました。WFPは、台風発生から3ヶ月で13万5千人を支援し、今までに3千トンの米を配給しました。10ヶ月がたった今でも、台風の爪痕は深く、現地では復興支援が続けられています。

Photo Stories

1 チャン・ドンゴンさんは、台風16号で稲が壊滅的な被害を受けた村を訪れました。今年10月に米が収穫できるまでは食料難が続くため、WFPが食糧支援を行っています。ノイ（写真左）の家族は、育てていた稲を台風で失ってしまいました。そのため、ノイの父親は村を離れて働きに出ねばならず、ノイが二人の弟の面倒を見ています。

2 袋には30キロの米（大人ひとりの約2ヶ月間分の食糧）が入っています。WFPが食糧を配給することで、被災した住民たちは、食べ物の心配をすることなく、安心して復興作業をすすめることができます。

3 不発弾についての知識を広める活動をしている子どもたちと話す、チャン・ドンゴンさん。不発弾はラオスが抱える大きな問題の一つで、ラオス政府によれば、過去30年間で279人が死亡し、655人が負傷しました。爆発事故の20%以上は農作業中に発生し、半分以上の被害者が子どもたちです。

WFPマンスリー募金にご協力ください

WFPマンスリー募金は、毎月一定の金額をご指定の金融機関口座やクレジットカードから自動引き落としする募金プログラムです。例えば、毎月5,000円を1年間で寄付いただくことで、12人の子どもに、学校給食を1年間提供することができます。詳しくは国連WFP協会にお問い合わせください。

ショクリョウ ハイキョウ
0120-496-819
月曜～金曜（祝日を除く）9：30～17：30

※ご寄付は寄付金控除の対象になります。

女性に焦点を当てた支援



カンボジアにて。生後一週間の赤ちゃんとも母親。

世界で飢えに苦しんでいる人たちのおよそ 60% は、女性および女兒です。これは、女性の多くが、男性と同水準の教育を受けられず、また同等の収入や決定権を持たないということが原因です。

女性の飢えと栄養不良は、その子ど

もにも影響を及ぼし、世代から世代へと引き継がれます。妊婦が十分な栄養を摂取できないと、低体重の赤ん坊が生まれます。低体重で生まれた赤ん坊の幼少期における死亡率は通常の 20 倍にあたり、生き延びることができた場合も身体や知能の発達に障害が出る

可能性があります。

そこで WFP は、母親と乳幼児を対象とした栄養強化の取り組みとして、特に妊娠中と授乳期の女性および乳幼児に栄養たっぷりの特別食を配布しています。WFP の配給所には食べ物を受け取りに多くの妊婦や母親が集まってきます。これを利用して、政府やその他連携機関は、配給と同時に、ワクチン接種や乳児・妊婦検診などを実施します。

多くの国において、農業労働者の多くは女性で、家族に必要な食糧確保のために中心的な役割を担っているもの女性です。WFP がこれまでに経験した限りでは、食糧を配給する際に女性を通した場合の方が、その食糧がきちんと子どもたちの口に入る可能性が高いことがわかっています。女性は飢えの被害者になりやすいと同時に、飢えを解決するための鍵ともなりうる存在です。そのため、WFP では、女性のエンパワーメントを推進する活動に積極的に取り組んでいます。

買うことも支援 ～農作物購入で農民の自立を助ける～

飢餓がまんえんする地域でも、農民たちが、自家用分以上の作物、すなわち余剰作物をつくり、売ることは、技術的には可能なことが多々あります。しかし、余剰作物をつくり、売ることは、途上国の農家にとってあまりメリットがありません。

原因は、①貯蔵施設がないため、余剰作物をつくっても、腐ったり動物や虫に食べられたりしてしまう、②一番売値が下がっている収穫期に、安い売値で売らざるを得ないため、ほとんど収益が出ない、などです。メリットがないため、途上国の農家は、たとえもっと多くの農作物をつくる能力を持っていたとしても、つくらないことがしばしばあります。これでは、飢餓問題は

解決できません。

そこで、WFP は、食糧支援に使う食糧を、途上国の小さな農家や農業組合から買い付け、農民の自立を助けるという取り組みを、世界 21 カ国で行っています。

農民は、はじめは割安の利子で小額の融資を受け、種や肥料を買います。WFP やその他の連携機関は、貯蔵庫や防水シート、食糧袋を縫い合わせる縫製機などを用意し、また、農民を対象に、作物の品質管理や害虫駆除、防カビ対策などの研修を行います。

この取り組みにより、農家は、品質のよい作物をつくり、貯蔵し、WFP に売ることができます。WFP との取引によって、農家には現金収入が約束

され、次年度の種や肥料を買ったり、子どもを学校にやったりすることができるようになります。農民から農作物を買うこともまた、農民の自立を助ける WFP の支援なのです。



建設された貯蔵庫。以前は農作物を自宅の天井裏に保管していた。

渡辺俊介投手の WFP 支援！学校給食を野球でサポート！



© 千葉ロッテマリーンズ

千葉ロッテマリーンズの渡辺俊介投手は、2009 年シーズンより、1 回（イニング）投げるごとに 1 万円を WFP の学校給食プログラムに寄付するという形で、野球を通じて WFP を支援しています。2009 年シーズンの寄付額は、合計 144 万 3 千円（144 回

と 3 分の 1 イニング分）に達しました。またシーズンオフにも、WFP 支援活動を積極的に行っています。今年 1 月、鹿児島県の種子島で行われた自主トレーニングの際には、地元の子どもたちを対象に野球教室を実施し、WFP の活動紹介と募金活動をしました。

いただいたご寄付は、子ども達の健全な発育と就学率の向上を目指す「学校給食プログラム」に役立てられます。渡辺選手の支援により、およそ 300 人以上の子どもたちに 1 年分の学校給食を届けることができます。今シーズンも、6 月 18 日現在で既に 80 回 3 分の 1 イニングを達成し、今後の活躍が期待されています。

渡辺選手は、「世の中に食べ物すらなく不安な日々を送っている人が大勢いる中、プロ野球選手として活躍できていることに本当に感謝しています。選手として活動を続けられる間は、飢えに苦しむ途上国の子どもたちに食糧と教育の機会を提供する学校給食プログラムを支援したいです。」と話しています。

世界では、5 歳未満の子どもが年間 880 万人亡くなっています。そのうち 3 分の 1 は、栄養不良に関連しています。この過酷な現実を変えていくためにも、マウンドでベストを尽くしたい、と渡辺選手は語っています。

渡辺選手の活躍にご注目下さい。

私たちの WFP 支援 株式会社ジェーシービー

株式会社ジェーシービーは、2007 年 9 月より JCB カードの「Ok! Doki ポイントプログラム」の「ポイントチャリティーコース」を通じた WFP 支援を行っています。「ポイントチャリティーコース」とは、1 ポイントを 5 円に換算し寄付できるというもので、すでに多くのカード利用者がこの制度を利用し、寄付総額は 400 万円を超えました。

また、同社は WFP を支援する社内活動も推進しています。青山本社と JCB カードセンター（三鷹）の社員食堂では、支援対象メニューを選ぶと、

その代金から 20 円が寄付され、さらに同社が 20 円を上乗せして寄付するというキャンペーンが実施されました。

キャンペーン期間中は、協力を呼びかけるため、食堂に WFP の活動を紹介するポスターが掲示され、各テーブルにパンフレットが置かれました。

2009 年 11 月には、CSR 社内講演会を実施。世界の飢餓状況や WFP の活動について、社内の理解や協力を促進する機会を設けていただきました。藤解和尚 CSR 推進室長は、「私たちにとって WFP は CSR 活動における主要パートナーのひとつと考えていま

す。今後もパートナーの皆さんたちと一緒に小さなことでも、できることを積み上げていきたいと思っています。」と語っています。



© JCB

青山本社の社員食堂

第7回 WFP 生徒作文コンクール 作品募集中



未来を担う日本の子どもたちに、世界の飢餓問題について関心を高めてもらうため、「WFP 生徒作文コンクール」を開催します。世界では全ての人々が食べるのに十分な食べものがあります。

しかし一方で、一日一度の食事すらとることもできずに、飢えや栄養失調によって命を落とす子どもたちが大勢います。このような深刻な状況を変えるために、私たちに何ができるでしょ

うか。WFP では、問題の改善のためにできることや、周りの人に飢餓について伝える方法、キャンペーンのアイデアを募集しています。是非ご応募ください。



実施概要

テーマ：「地球のハラペコを救え。～私のキャンペーン～」

題名：自由

募集期間：2010年7月1日(木)～9月15日(水)〔締切日必着〕

部門：①小学生部門(5・6年生) ②中学生部門(1～3年生)

応募方法：日本語で募集。長さは400字詰め原稿用紙で1,000字から1,200字まで。パソコン入力の場合、文字数は20字×20行。

専用の応募票(ホームページwww.wfp.org/jpトップページの「新着情報」欄からダウンロードできます)に必要事項を記入し、作品に添付の上、下記まで送付して下さい。

送付先：〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-17-8 NBFビル8F ポパル気付
WFP 生徒作文コンクール事務局

審査員：王理恵さん(雑穀・野菜料理研究家)、外務省、農林水産省、文部科学省の各代表など

発表：10月15日(金)に、WFPホームページで入賞者の氏名と入賞作品を発表予定。

※ WFP 賞受賞作品は受賞者本人の朗読を収録し、

「ソフトバンクチャリティダイヤル」のコンテンツとして1カ月間紹介します。

※更なる詳細は WFP ホームページでご確認ください。

【お問い合わせ先】

WFP 生徒作文コンクール事務局 Tel. 03-3980-9030

月曜～金曜(祝日を除く) 10:00～12:00 / 13:00～18:00

「ウォーク・ザ・ワールド」開催報告



6月6日(日)、子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティ・イベント「ウォーク・ザ・ワールド ～地球のハラペコを救え。～」が開催されました。世界では少なくとも70カ国で150,000人が参加(集計中)。日本では横浜みなとみらい地区にて、過去最多の3,703人が参加しました。当日、横浜は晴天に恵まれ、ゲストのプロレスラー・蝶野正洋さんや、子ども連れのご家族、そして企業の従業員の方など、様々な参加者がウォーキングを楽しみました。

「ウォーク・ザ・ワールド」を通じて、日本では合計2,727,900円が集まりました。内訳は以下の通りです。

・参加費から一人当たり500円を寄付 1,851,500円

・その他の募金 876,400円

ご寄付は、WFPの学校給食プログラムに活用します。

日本での開催は6度目となりましたが、多くの方々にご参加いただき、世界の飢餓問題への関心をさらに高めると

ともに、貴重なご寄付をいただくことができました。参加者をはじめ、運営を助けていただいた140人のボランティア、その他ご協力いただいた全ての方々に厚くお礼申し上げます。



WFP 国連世界食糧計画日本事務所

〒220-0012 横浜西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 6階
www.wfp.org/jp

国連 WFP 協会

〒220-0012 横浜西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 6階
TEL. 0120-496-819 月曜～金曜(祝日を除く) 9:30～17:30
FAX. 045-221-2534
www.wfp.org/jp